

住まいづくりとヒヤリング

N大学：工学部・工学科・3年

期間：令和6年9月12日～16日（5日間）

実習先のN社での住まいづくりの考え方やヒヤリングについて、まずお客様の思いを傾聴すること、受け取った沢山の思いを整理して、お客様に決めていただいた優先順位を基に、的を絞ってプラン作りをすることが大切であると学びました。

コンシェルジュ課では、営業活動のコミュニケーションの基本としてお客様のお話をお聞きするときに、共通点を見つけることとお話からより深く知るために質問をすること、教えてもらうこと、その尋ね方のバリエーションを持つことを教わりました。また相手を好きになるために、苦手に感じた部分をどう受け止めるか、好きな部分をどう見つけるかが大切で、お礼や挨拶の手紙を書くことがどれだけ関心を相手に向けているか自分に示してくれるということが印象的でした。営業会議では併設の複合施設の存在やイベントの発信、N社の新築住宅のあり方を発信することについて、SNSや情報誌といった既存の手段を用いて誰を対象に、何を目的に活用するのか、話題性を強化するために短く量と頻度を大きくすることが大切であると教えていただきました。また打合せを通して、複合施設がオーナーさんにとって遊びに来る、楽しみにできる場所でもあり、岩国にいつもある工務店さんとしての役割、住んでから相談できることを学びました。そして複合施設に来て下さるお客様と、同じような感性を持つ方々が集まって、人の輪が広がる様子が印象的でした。また一つひとつの施設がお客様の住む家や生活を見つめるきっかけとしてデザインされていて、お客様が複合施設を訪れやすくすること、スタッフさんと相談しやすい環境を作ることで、どういった生活をしたいのかをお聞きすることに繋がるのが興味深かったです。

設計課ではヒヤリングについて、お客様へも同僚の皆さんへも共通して必要としていることは何か、優先したいのは何かを相手に確認して考えてもらうこと、相手に思いを並べてもらってそれを逆算しながら或いは条件の相性を考慮して並べ替えることを意識なさってるというお話が印象的でした。またそれによって、お客様の新居に対する気持ちを整理して固めてもらうことで、実施設計のプランを立てる際は多くても2案で大枠を決めるという時間の使い方の工夫や、だからこそ丁寧なヒヤリングが必要であることを学びました。

くらし支援課ではリフォームと新築との違いについて、今住んでいらっしゃるお客様の生活に負担がかかることを避けるためにより短期間で日程を決めること、家具の移動など密にお客さんと連絡を取ること、担当者さんが建物の現状を把握して各職人さんと状況を詳しくコミュニケーションをとることが大切で難しいところだと教えていただきました。

今後の学生生活やアルバイトを通して、どう傾聴して相手の思いを受け取るか、質問や相槌の打ち方の種類を増やすこと、また相手に共感していること、相手を知りたいことをどう表現するかを意識して、気付きを得て真似ることを頑張ります。また相手に信頼してもらうため、また悩みや不安に気づくために、聞き方のバリエーションを増やすことに意識して話します。

「安全第一」の意味とその重要性

YT 大学：工学部・機械工学科・3年

期 間：令和5年9月4日～8日（5日間）

私は、K建設株式会社で5日間インターンシップをさせて頂きました。県内企業において、湾岸工事という業種内でとりわけ珍しい事業であった為に興味を惹かれ、参加しました。

最初に会社概要についての説明、安全に関する講習を受けました。国内での浚渫・埋め立て工事、海外での海底トンネル掘削工事など初めて耳にする内容が多く、そのどれもが大規模であり、物流の基礎を支える重要性の高い仕事であること、陸上での建設作業とは明確に異なるのを実感しました。

主な実施内容として、各現場の事前確認の見学をしました。この会社では海底を掘削し、大型船が十分航行し得る航路を確保する「浚渫工事」を手掛けていました。作業前には必ずその現場に船で赴き、海面から海底まで半日、時には数日かけて潜水調査を行う。実は、関門海峡周辺の海域には世界大戦中の機雷や不発弾が5000近く残留しており、掘削中に接触してしまえば大事故につながりかねない。多くの船舶が行き交う物流拠点にも戦争の爪跡が残っていることを知り、仕事に対する責任を強く感じました。

初日の研修・座学、工事前の「送り出し教育」と呼ばれるミーティング、更には工事に携わる他の事業者との安全教育訓練など、この5日間で安全に関して学ぶ機会が多々ありました。書類や再現映像による一般的な講習に加えて近年発達したVR技術を活用し、三次元上の仮想空間でインシデント例を一通りシミュレーションする事もありました。この業種における新技術の導入といえば、自動操縦などによる作業の自動化、AIによる業務の効率化が大半だと考えていた為、作業前の講習に活用するのは盲点でした。

工事現場や工場では必ずといっていい程に「安全第一」という言葉が使用されているが、その意味が今回のインターンシップを通して理解できました。建設作業は複数の会社・事業所を跨ぎ、作業員、重機オペレーター、現場監督など所属や役職が大きく異なる人々の共同作業である。その中で一人でも小さなミスがあれば、それが工期の遅れや事故につながってしまう。もしそのような事態に陥れば、国内のみならず海外の物流に多大な損害が発生してしまい世界中に影響が及ぶ。また、これは現場で働く人々の命にも直結している。講習の際、『跳べると思った水たまり』という言葉が用いられていたが、この言葉通り、過信や注意不足、一瞬の気の緩みが命取りになりかねない。ましてやここでの現場は海上であり、転落や溺死のリスクが常にあると言っても過言ではない。やはり、徹底した安全管理こそが仕事の完成度を左右する事を、身をもって理解しました。

このインターンシップを通して、あらゆる仕事に対して常に安全を第一にして向き合う意識、国内外の物流発展を支えるという責任感を忘れず、これを指針に自身の進路を定める糧とすることを今後の抱負としたい。

5日間という短い時間でしたが、大変お世話になりました。

本当にありがとうございました。

実際に現場に立って変化した現場監督への認識

K大学：工学部・建築学科・3年

期間：令和4年9月5日～9日（5日間）

私は将来建築・土木関係の職種に就いて働きたいと考えている。大学受験期にはとりあえず設計会社に就職することを目標とし、建築系の学部学科に進学した。ところが専門的な学習をするうちに、私のしたいことは設計ではなく実際に現場に立つことなのではないかと考えるようになり、漠然と描いていた将来設計に対して疑問を持つようになった。そこで今回は、実際の建築や土木の現場を体験できる会社へのインターンシップを希望し、参加した。

このインターンシップを通して様々なことを学び感じたが、特に心に残ったのが建築現場の現場監督の仕事と土木現場の現場監督の仕事に対する印象が、実際に現場に立ち、仕事を見るまでに思い描いていたものと大きく異なるという点だ。現場監督の仕事といえば字の通り現場作業の進行状況の確認などが主な仕事で、言うなれば現場でのリーダー的な役職であると考えていた。しかし実際に働いている現場を間近で見ていると、その認識は間違っていたのではないかと感じた。確かに現場作業の進行状況の確認は仕事の一部ではあるが、他にも様々な職種の方との会議や作業の過程で発生した問題の解決、職人の方がよりスムーズに仕事を遂行できるような細かな作業などが大まかな仕事であった。それらはリーダーとして現場を引っ張っていくというよりは職人の方達が日程通り快適な作業を行えるようなサポートを行う役職というような印象を受けた。

現場や事務所では様々なことを教えていただいたが、現場で様々な人と関わりスムーズに事業を進めていくために第一に大切なことである「同じ現場で働く仲間や職人の方と積極的にコミュニケーションをとる」という点が今の自分では不十分だと感じた。しかしこのことは初日に教えていただいたため、インターンシップ期間で最初に現場に出始めた時から意識して行動するように努力することができた。現場では一つの変更点が生じてしまうと多くの他企業に迷惑をかけたり、納期までの作業予定が狂ってしまったたりするため、円滑な情報交換を行うことで不具合なく日程通りに作業を遂行することが重要となる。そのためには普段から現場の色んな人とコミュニケーションをとることが必要であるのだ。そこでインターンシップでは疑問に感じたことを積極的に質問するように努めた。そうすることで現場の方々が快く質問に答えてくれただけでなく業界に対して自分の興味も深まっていくのが感じられたため、今回のインターンシップがより充実した体験となったように思う。

また、大学の講義では教科書内でしか出てこなかったような用語が現場で飛び交っており、教科書内の世界だと思っていたコンクリートや鉄筋などの建築材料や、それらについての知識が実際に使われているのだということを実感することができ、これから大学で学ぶ事柄についての興味と学習への意欲が湧いた。今回のインターンシップで得た貴重な経験を糧とし大学での勉強に励み、自分の進みたい進路をより明白なものにしていきたい。

まずは、凡事徹底を貫くことから

YG大学：教育学部・教育学科・3年

期間：令和2年9月17日～21日（5日間）

私はこのインターンシップを通じて、凡事徹底の大切さを学びました。

私が今回インターンシップをさせていただいた株式会社Nでは毎日朝礼、一斉清掃を行っていました。朝礼では社訓を唱和し、各部署の本日の行動予定を共有します。朝礼を行うことで社訓を心がけつつ、新鮮な気持ちで1日をスタートさせることができます。掃除をすることによって心をすっきりできます。株式会社Nでは先ほど述べた朝礼や掃除だけでなく、外にでるときには「いってきます」「いってらっしゃい」、戻った時には「戻りました」「おかえりなさい」など挨拶が徹底されていたりと、社訓が社員一人ひとりに沁みこんでいました。お客様が来られた時は全員で出迎え、お見送りをする姿は圧巻でした。株式会社Nの社訓は、業種を問わず社会人であれば誰でも通ずることです。今の私にはできていないことが多々あったので、残りの大学生活でしっかり身につけて社会に出たいと思います。

私はこの5日間のインターンシップで、現場監督と営業の仕事を体験させていただきました。現場監督は、予定通りに家が完成するようお家づくりを任せる工務店や庭師、タイル職人などを決め、日程を調整する責任重大でとても難しい仕事です。1日にたくさん現場をまわり設計図をもとに予定通り作業が行われているかを確認したり、職人さんの疑問を解決したりします。今回のインターンシップで家づくりには想像以上に多くの職人さんが関わっていると知りすごく驚きました。こんなにたくさんのお客様の一人ひとりを1人で動かす現場監督は、本当に偉大な存在です。営業の仕事ではお客様の一人ひとりのタイプに合わせた接し方を学び、営業活動の一環として実際に会社周辺のポスティングを行いました。「営業をする上で必ず全てのお客様が自分に合うわけではない。だからこそお客様一人ひとりに満足していただくために、一人ひとりにあった話し方、内容、テンポを意識しないといけない」という言葉がすごく印象的でした。

社長は『農業をしたい』という夢、専務は『自分が社長になり、家をこれからもっともっとたくさん建て、「やっぱりここ（この会社の家）が1番だね」と言ってもらえるような地域に愛される会社にし、様々な事業を通して地域を発展させたい』という夢をもっておられました。ほかの社員さんも自分のためだけではなく、次期社長である専務のビジョン達成のため、会社の存続のために日々働いているとおっしゃっていました。上に立つ人の思いが社員みんなに届き、社員が会社のために働く、組織の理想形だと思いました。

会社の組織がしっかりと成り立っているのは、凡事徹底がなされており一人ひとりが人としてきちんとしているからだだと思います。社会人として大切なことをたくさん学べた非常に有意義な5日間となりました。お世話になりました。ありがとうございました。

学生と社会人の違い

U高等専門学校：電気工学科・4年

期間：令和元年9月9日～13日(5日間)

私は、5日間I株式会社でインターンシップをさせていただいた。この実習を通して、私は学生と社会人の違いを感じた。電験や電気工事士などの資格を持っていないため、インターンシップの内容は簡単な工作や見学が主だった。

私は学校で電気工学について学んでいる。そのため電気回路についての知識はあったが、電気工事に関する知識はほぼ無かった。したがって初日はどのような手順で仕事が行われているのか説明を受けた。そこで工事施工前の社内確認書というのを見せていただいた。そこには契約や安全確認、品質確認などについて55個ものチェックリストがあった。このように社内から丁寧に点検することで会社同士の信頼につながると感じた。

座学が終わった後は工作を教わりながら行った。内容は導線を釘で打ち固定したり、電線管をガスバーナーで曲げたりした。学校ではこのような実技をすることはなかった。そのためやること全てが初めてのことで慣れないことが多かった。しかし、このような工作は電験の資格を取るのに必要な技術であり丁寧に教えていただくことができとても勉強になった。これらの作業を1、3、4日の計3日間行った。

2日目は航空自衛隊の基地内を見学した。避雷針や雨量測定器、地表温度計のデータを管制塔へ送るものを見学させていただいた。実物を見るのは初めてだったが1つ1つの部品の役割を丁寧に説明していただきよく理解できた。また電気とは関係はないが飛行機が飛ぶところを間近で見ることができた。一般人が簡単には入れるような場所ではないため貴重な時間を過ごすことができた。

5日目に仕事内容だけでなく働くうえでの心構えまで学ぶことができた。働いている人と交流して、一人一人が責任感を持って仕事に臨まなければ大きなミスや事故に繋がることを感じた。ここが学生とは違う点だと考えた。さらにインターンシップに参加するまで仕事の内容は勉強の内容と深く関係があると思っていた。しかし全く関係がないわけではないが現場での実務経験が必要だと感じた。資格などを取るためには勉強が必要なので続けていきたいが勉強だけが必要ではないことを知ることができた。このような貴重な場を設けていただいたI株式会社の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。